①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・□－ａ＝ｂの型の逆思考の問題を解くことができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・数量の関係を絵や図，ブロックで考える学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・a－□＝ｂ型の逆思考の問題を解くのは初めて。

○ゆさぶりに対応する経験

・テープ図を使って，数量関係を捉える学習をしている。

教材研究ノート№2-A-4

≪学習問題≫

ペンダントが　30こ　ありました。

子どもたちに　くばったら，10こ　のこりました。

なんこ　くばりましたか。

≪定着・活用問題≫

主眼

≪学習問題≫



授業計画･実施記録

②見通し：くばったペンダントの数がわからない。

→　初めにあった数と，残ったペンダントの数を使えばできそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：お話を図にしたり，テープを使ったりして，くばったペンダントの数を求めよう。

③個人追究: テープ図をかいて，配ったペンダントの数を求め，求め方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「それぞれの求め方を見て，どう思う？」

→「テープ図で考えると，わかりやすく，簡単に求められる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「前はひき算の逆はたし算だったから，たし算ではないのか？」

→「はじめ30こあって，10こ残ったのだから，くばったのは30－10で20こになる。」

「テープ図で考えると，ひき算になることがわかりやすい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・初めの数から残った数をひけば，くばった数を求められる。

・テープ図に表して考えると，わかりやすい。

⑥定着･活用問題

(1)あめ玉が 80こ ありました。友だちにくばったら，

20このこりました。

なんこ くばりましたか。

(2)リボンが 95cm ありました。花かざりを

つくるのに，つかったので のこりが9cmに

なりました。なんcmつかいましたか。

テープ図をつかってせつめいしましょう。



＜本時の展開に当たっての留意点＞

・問題場面をとらえるために，絵や図を使って表すことを大切にし，問題文，絵や図，式を対応させて考えることができるようにしたい。

・単元を通して，条件を整理するものとしてテープ図のよさに気付かせ，テープ図のかき方を深めさせたい。

【板書計画】